

会議録

日 時	令和6年12月26日(木) 18:30～
会 場	広葉交流センター2階 研修室
出席委員	会長：藤井 浩 副会長：森下 徹、新發田 修治
事務局	エコミュージアムセンター 主査：畠 誠(学芸員) 主任：黒田 弘子(任期付き学芸員) 主任：吉村 くるみ(学芸員) 主事：小杉 宇海(学芸員)
会議次第	1. 開 会 2. 教育委員会あいさつ 3. 会長あいさつ 4. 議事 ・令和6年度 エコミュージアムセンター関係事業 状況報告について ・特別天然記念物野幌原始林保存活用計画について ・史跡旧島松駅通所大規模改修事業について ・文化財保護審議会のあり方について 5. その他 6. 閉 会

1 開会

2 教育委員会あいさつ

3 委員長挨拶

藤井会長よりあいさつ

4 議事

- ・令和6年度 エコミュージアムセンター関係事業 状況報告について
- ・特別天然記念物野幌原始林保存活用計画について
- ・史跡旧島松駅通所大規模改修事業について
- ・文化財保護審議会のあり方について

会議録

【令和6年度 エコミュージアムセンター関係事業 状況報告について】

(事務局から令和6年度エコミュージアムセンター関係事業状況報告について説明)

委員長 埋蔵文化財のところ、共栄の場所は以前試掘を終えられた範囲のところか。

事務局 以前、北海道教育委員会と共に試掘を実施し終了した場所。

委員 市民大学のところで、15期生が9名というのは少ないと感じるのですが、何か考えられるか。

事務局 15期生は1名退学しているものがある。過去から見てみると極端に多く入学した年もあれば、少ない年もあるのでどのような理由かはわからない。

委員 赤毛の見本田での栽培について、これまで西部小学校で行なわれているが、他の学校の希望というものはなかったか。できたら、他の小学校で体験させてあげると郷土愛が増すのではないか。

事務局 20年くらい前からだが、他の学校からの希望は一度もない。各学校で校庭等に水田を作っているというのは聞いたことがある。

委員 駅通所の場所で田植えなどをすることが、ここで中山久蔵が栽培していたとより実感するのではないか。

事務局 水田は大きくないので、全部の学校というわけにはいきませんが、小学校の現地学習の時などは、水田近くまで行き説明はしており、理解してもらえていると思う。

委員 貝化石のレプリカづくりは、かなり多くやっているがブームなのか。

事務局 エコミュージアムセンターで実施する場合は、いこ～よの学習室を借りて、石膏を型に流し込み、固まるまで時間がかかるので、その間、エコミュージアムセンター内のバックヤードを含めて行う。学習室に帰ってきて型から取り出し、実物そっくりにできて、そこが魅力があるのかと思う。

委員 体験というのは大事だと思う。

事務局 画面とか紙だけでは伝わらないものがあるため、体験は必要と思う。

委員 実際に掘れる場所があれば、より興味がわくと思うが。

事務局 実際に学校の授業で発掘を行った事はあるが、現在はそういった発掘できる場所がなくなってきたため難しい。

委員 土器のレプリカづくりなどはできるのか。

会長 接合するようにしてくっつけたり、土器の模様を描いたりということはあるのですが、レプリカを作ることはあまりない。

【特別天然記念物野幌原始林保存活用計画について】

(特別天然記念物野幌原始林保存活用計画について説明 資料1)

会議録

- 委員 活用について、レクの森のアスレチックのところは良い林があるので、歩けるようになると良い。保存活用計画の完成とともに歩ければなお良いと思う。
- 事務局 委員が知っているとおりの管轄は別の部署であるため、現時点ではどのようにするという事はわからない。
- 事務局 保存活用計画については情報共有しているため知っている。大きな動きがあるときはわかると思うが、今のところわからない。
- 委員 モニタリングの調査の内容は決まっているのか。
- 事務局 はっきりとは決まってない。専門の業者からどのようなことをしていくのかというのは参考までに伺ったことがある。
- 委員 これらの内容を決めていくのは文化財保護審議会か。
- 事務局 保存活用計画に記載があるように文化財保護審議会で行っていくことになる。
- 委員 動物関係であれば協力をしていきたい。
- 委員 調査は定期的にやっていくのか。
- 事務局 いくつかのポイントを決めて、それを一周するようにすると5年かかるのが良いのではないかと考えている。従って、定期的に調査を行うことになる。
- 委員 調査は樹木の大きさ、高さなど見ていくポイントをしっかりしないとダメではないか。
- 委員 具体的な手法というのはこれからか。
- 事務局 計画の中でも、樹木の直径であったり、立木の密度であったり、稚樹の生育密度であったり、森林が回復しているかというところがポイントとなる。また、森林性の動物なども含め、専門の先生や業者などと相談しながらと思う。
- 委員 長い期間で見えていかななくてはならないため、調査方法など難しいと思う。
- 事務局 専門の先生方もこの森林がどの方向に向かうのかわからないところがある、としていて、しばらくの間はどの方向に向かうのか見ていく必要がある、とっている。
- 委員 意味のある調査をしていかななくてはならないと思う。
- 委員 活用でエコミュージアムの企画展とかはどうでしょうか。
- 事務局 企画展でも実施しようと思うが、常設展示でも限られたスペースではあるが、野幌原始林のことを行っていきたい。
- 委員 野幌原始林が北広島にあるということが市民が知らないということがあるので、周知を行っていったらと思う。

会議録

委員 特別天然記念物野幌原始林の中に市民など入る機会を作れないか。ハードルは高いと思うが、数年に一回でも入ることができたら興味・関心が高まると思うが。

事務局 保存活用計画策定の段階でもそういった話は出ていたので、周知活動の一環として入れたらと思うので、今後の検討としたい。

【史跡旧島松駅通所大規模改修事業について】

(史跡旧島松駅通所大規模改修事業について説明 資料2)

委員長 一般の方々に工事の経過を見てもらう機会があったか。

事務局 一般の方々に見てもらう機会はなかったが、星槎道都大学の建築科の学生に見学してもらった。市議会議員らに見てもらう機会は何回かあった。

委員 畳はどのようにしたのか。

事務局 全体の内、一部はカビているものがあったが、ほとんどのものは保存状態は悪くなかったので大部分はそのまま使う予定でいる。カビの状態がひどいものについては取り換えることを考えている。

委員 創建当時のものではないのか。

事務局 昭和59年の改修工事のときに取り換えたもの。ただ、駅通所の材は明治時代の梁などもあるため、釘1本打つときは最新の注意を払って、元の場所に打つなどしている。

委員 板もナンバリングしていると聞いたが、それで何かわかったことはあるか。

事務局 昭和59年に史跡にするときは色々な発見があった。壁の下地材から中山久蔵や昔の者が書いた古文書を反故紙として壁に貼りそれが見つかったりとかしたことはあるが、今回、昭和59年に行った工事の報告書を参考に行っているので、大きな発見はなかった。

事務局 天井裏を上がってみたときに、小さな家の上にもう一段大きな家をかぶせるように作ってあることから、その小さな家の屋根の骨組みが見えたのは大きな収穫だった。

事務局 (星槎道都大学の先生が来た時に) 駅通所は継ぎ手が色々と使われているが、継ぎ手の位置や鬼門の方角、行在所がある場所などから、その建物を作ったものがどこから来たのかがわかる、ということを教えてもらった。
建築の専門家から駅通所はしっかりと作っていないことから宮大工ではないということはいえる。これらから今後、エコミュージアムセンターがどのような展示をすればよいのかを考えていければと思う。

【文化財保護審議会のあり方について】

(文化財保護審議会のあり方について説明 資料3)

委員 増員については大変に良いことと思う。

今後大変になると思うが、よろしく願います。

会議録

【閉会】